

市内小中学校の適正規模・適正配置の説明会（第1回）

6月29日（月）午後6時～午後6時55分 北橋公民館

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
1	適正化によって、学校のある地域とない地域が偏ると、まち全体に偏りが出てしまうように思います。それによって、まちが過疎化するような気がします。	学校がなくなってしまうと人が減ってしまうという心配をしている人は多いと思います。その中で、学校の適正規模・適正配置では、「子どもの人数が減っている状況をどうかんがえるか」という視点で考えています。 今後の教育環境の変化において、子どもの学びのことを考えれば、学校の適正規模・適正配置をある程度進めたいという考えと、地域の活力維持の面での学校の必要性という考えを突き合わせ、それぞれが納得できる形にしたいと考えています。
2	教育のことで、適正化を進めていると理解しています。その中で、財政の運営やまちづくりの分野でも、連携をとって進める必要があると思います。渋川市は、もっと名前を売り込まなければ人が来ないと思うので、その分野との連携も必要になると思います。自慢できるような市であって欲しいです。	市は、第2次総合計画が令和9年度をもって終了するため、令和10年度以降のまちづくりの長期的な展望を示すための、第3次となる新しい総合計画を策定する予定です。 学校の適正規模・適正配置の検討においては、市総合計画のほか、各種施策との整合を図りながら取り組みます。
3	・事業スケジュールでは、今年度末に基本計画を公表とあります。実際に学校の統合などが始まるのはいつごろになる想定ですか。 ・早い時期に統合が決まり、新しい学校の準備をしている期間中に、別の学校の子どもの人数が減って、統合が必要になるということも想定されるのではないのでしょうか。	今年度中に策定する「基本計画」では、「〇〇学校と〇〇学校を〇〇までに統合する」などの具体的な考えをまとめます。次年度（令和9年度）は、その計画をもとに地域の協議を進めることとなります。 規模の小さい学校が早期統合を望む場合であって、規模の大きな学校に吸収される形が、最も早く話が進む事例と考えられます。この場合、令和9年度中に統合の意志決定がされたとしても、翌年（令和10年度）は、新しい学校・廃校となる学校ともに準備期間（1年）となります。そのため、最も早く話が進んだ場合でも、学校の統廃合は令和11年度以降になる考えです。 統合先の学校に施設改修が伴う場合は、工期を概ね5年と考えているため、令和16年以降になると考えられます。 子どものためにも統廃合を繰り返すことは避けたいと考えています。そのため、推計値のある2050年までの長期的な視点で、適正規模・適正配置を検討し、できる限り統廃合を繰り返すことによる子どもへの負担を軽減できるよう取り組みます。
4	国の示す標準規模（小・中学校ともに12～18学級）に対して、渋川市が目指す適正規模は、どれくらいの規模ですか。	「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本方針（概要版）」の「第5章 適正規模・適正配置（P6）」に、市が考える基準を記載しています。 学級数について、国は標準規模として、小・中学校ともに1校当たり12～18学級と示しています。 市が設定した適正規模は、小学校は国の標準規模と同じ1校当たり12～18学級ですが、中学校は、1校当たり9～15学級です。これは、昨年度実施した教職員へのアンケートの結果を踏まえて、国が示す規模よりも小さい規模を設定しました。
5	小中一貫校（義務教育学校）については、地域からの要望があれば、検討いただけるものではないでしょうか。	小・中学校をまとめた小中一貫校（義務教育学校）の導入も考えられます。ただし、適正規模化を伴わない状態での小中一貫校の導入は検討しないこととしています（基本方針（本編）P30）。
6	市長が中高一貫校について話をしていたかと思いますが。教育委員会としてはどのように考えていますか。	市長の政策方針の中に中高一貫校の検討がありました（広報しぶかわ・令和7年10月号・P3）。また、県の教育委員会が高校の検討を進めていることも承知をしています。 高校に関する検討の進捗に対して、市内小中学校の適正規模・適正配置の検討が先行していることもあり、今年度策定する「基本計画」において、中高一貫校の件を記載する予定はありません。 今後、高校に関する検討が進み、市教育委員会として考慮する必要がある際には、対応したいと考えています。

市内小中学校の適正規模・適正配置の説明会（第1回）

6月29日（月）午後6時～午後6時55分 北橋公民館

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
7	少子高齢化に拍車がかかっているように感じます。空き家も増えています。魅力的な学校があれば、人口が増えると思います。残された学校の維持管理は大変ですが、人口が増えるような魅力的なまちづくりをすることで、子どもたちにとっても遊び場があって、学校が楽しいとなるのではと思います。	—
8	旧町村ごとの地区にとらわれない統廃合を検討してください。 例：赤城地区と北橋地区を1つと考えた統廃合→赤城北中、赤城南中、北橋中を統合	市内全域で児童生徒数が減少している実態がありますので、市全体で学校の適正規模・適正配置の検討を進めます。
9	合併をして、教育に必要な人材、経費等を集中させる方がよいと今は思います。この先いろいろ意見を聞いて変わるかもしれませんが。	—
10	送迎バスの充実化を求めます。	学校の適正規模・適正配置により、子どもたちの通学方法にも変化が生じます。今年度策定する基本計画の内容を踏まえ、通学バス等の通学支援についても今後検討します。
11	せっかくの説明会の機会でしたが参加者が少なく、子育て世帯への周知方法や別の機会（学校行事の際に説明してもらう）があると良いと思いました。	今回の説明会は、広報しづかわや市のホームページ、市の公式SNSのほか、児童生徒の保護者向けのメール（すぐーる）、未就学児の保護者向けのチラシ配布で周知しています。 説明会はどなたでも参加いただけることとしていますが、いただいた意見も参考にさせていただき、より多くの方に「学校の適正規模・適正配置」を考えてもらいたいと考えています。 開催曜日や時間によって参加がかなわない方もいることが想定されるため、第2回目以降の開催については、土曜日や日曜日の開催も検討します。
12	小5、小1、長中の母の立場からすると、興味深い内容でした。	—
13	子ども達のことを考えた適正配置をしていただきたいと思います。	—
14	子どもたちが学びたい学校。ずっと住みたい渋川市になって欲しいです。	—
15	今回の適正化の中では、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校までも総合的に考えた、教育・人材育成を見直す機会と捉えていただきたい。	今年度策定する「基本計画」には、「〇〇学校と〇〇学校を〇〇までに統合する」など、より具体的な考えをまとめます。 よって、市内の教育・保育施設（保育園や幼稚園など）や学童など、学校の適正規模・適正配置と合わせて検討しなければいけない要素につきましては、基本計画において統合先が決定した段階で詳細の検討になる想定であります。